

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域活性化イベント開催事業	担当課	久々野支所 基盤産業課	内線
	番社				3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・久々野地域の団体及び住民が主体となり、地域のさらなる活性化を図るイベントを開催し、高山市内外からのくぐの地域への誘客を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	・ひだ桃源郷くぐの観光協会が事務局となり、地域団体が中心に実行委員会を構成し、各イベントを開催する。 ◎ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会 ◎ふるさとくぐの会 ◎アルコピアひまわり園 ◎ひだ桃源郷くぐの納涼夏祭り ◎ひだ桃源郷収穫劇場 ◎アルコピアスノーカーニバル		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・イベントの開催 ◎ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会 ◎ふるさとくぐの会 ◎アルコピアひまわり園 ◎ひだ桃源郷くぐの納涼夏祭り ◎ひだ桃源郷収穫劇場 ◎アルコピアスノーカーニバル					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント開催数	回	目標値	6	6	6
				実績値	6	5	6
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値	100	83	100
				実績値	22,000	22,000	22,000
	成果指標	イベント総来場者数	人	目標値	20,707	14,456	8,925
				実績値	94	66	41
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値			
				実績値			
成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値				
			実績値				
成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値				
			実績値				
成果指標	算出根拠等	達成率(%)	目標値				
			実績値				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 9,993	7,368	7,106		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		9,993	7,368	7,106		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 108	80	78		
	受益者	全市民(4月1日)	(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・各イベントは久々野地域の特色を生かしたものであり、地域の特産品や観光資源のPRの場として地元生産者や地域の期待も大きく、活性化にもつながる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・次年度からのイベント補助金の対象事業が限られていることから、地域住民や地域団体が主体となり、自主的に運営する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・各イベントは地域や観光客にも定着しているが、台風等の影響により今年は入込数が低下した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・地域団体及び住民の協力により、最小限のコストで実施されているが、一部自主運営のイベントになるため、収益増を図ることが必要となる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・久々野地域の特色を生かしたイベントであり、地域全体が活性化できるものとなっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・観光客誘致が有効なイベントの運営方法や内容を精査し、地域住民及び地域団体が主体となり自主的に運営できるよう進める。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 (アルコピアスキー大会開催事業)	担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	ウインタースポーツ振興による青少年育成、シニアスキーヤー復活及び獲得、アルコピアスキー場の活性化。		
概要	事業の実手法(手段)	小中学生やシニアといった幅広い年齢層を対象にし、技術性の高いスキー大会を開催する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	ロシニョール杯第32回アルコピアジュニアスキー大会(1/25) 125名 HEAD杯第57回アルコピアルペンスキー大会(2/15) 134名 第20回アルコピアスノーボードカップ(2/22) 76名					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	大会開催数	回	目標値	3	3	3
				実績値	3	3	3
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	大会参加者数	人	目標値	450	450	450
				実績値	339	323	335
				算出根拠等	達成率(%)	75	72
	成果指標	地元参加者数	人	目標値	150	150	150
				実績値	152	120	126
				算出根拠等	達成率(%)	101	80
	成果指標	市外参加者数	人	目標値	350	200	200
				実績値	187	203	209
				算出根拠等	達成率(%)	53	102
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 800	800	800		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		800	800	800		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 9	9	9		
	受益者 全市民		(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	全国的にスキー人口が減少している中で、市民だけでなく、県内外からの参加も多く、ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	スキー大会の運営は実行委員会で開催されている。スキー場と観光資源のPRの視点から、市が支援することは妥当だが、自主開催に向けて見直しは必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	スキー大会の開催により、青少年のスキー技術の向上とスキー場の活性化に効果があり、大会参加者数は目標の7割を超えている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	実行委員会方式により実施することで、関係機関が連携して大会を運営しており、運営経費削減に努めた。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	スポーツ振興だけではなく、誘客イベントの大会として、地域の活性化に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	大会参加者の増加に向け、さらなるPRを検討する必要がある。自主運営できる財源の確保が必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開まちづくへの高齢者の参画の促進。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支えるうえで大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、「単位クラブ」に対する活動助成 ・事務局人権費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
	算出根拠等			達成率(%)	96	97	98
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	138
				実績値	139	138	137
	算出根拠等			達成率(%)	97	99	99
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40.0	40	40
				実績値	38	37	37
	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口		達成率(%)	95	93	93
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	420	420		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		150	149	149		
	一般財源		270	271	271		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/ B) 462	458	456		
	受益者		久々野地区会員数(4月1日現在) (B)	910	918	922	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入率は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ数及び加入率は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		8 / 10	→	100点換算 80 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

市全体として新規加入者の割合が減少しており、連合長寿会会員加入率と単位クラブの減少が課題となっている。健康で生きがいを持ちながら生活するために、地域とのつながりを深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。

(参考)
H26事業評価結果(二次評価)
26年度終了

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	市道未登記用地測量事業		担当課	久々野支所 基礎産業課	内線	3531
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 の 位置 づけ	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・個人名義となっている市所有の道路用地について、分筆及び高山市への所有権移転を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・個人名義となっている市所有の道路用地を調査し、(社)岐阜県公共嘱託登記土地家屋調査士協会へ登記業務を委託する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・未登記となっている29路線のうち、1路線25筆を所有権移転					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	所有権移転登記完了筆数	筆	目標値	25	10	22
				実績値	14	13	25
	算出根拠等			達成率(%)	56	130	114
	成果指標	所有権移転登記完了筆数	筆	目標値	345	353	351
				実績値	157	181	206
	算出根拠等			達成率(%)	46	51	59
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 4,982	5,007	4,731		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		4,982	5,007	4,731		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 54	54	52		
	受益者 全市民		(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市道は日常生活に必要なものであり、道路用地の確保は市民にとって重要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市の管理する市道の道路用地を確保することは、市としては当然の義務である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・市道用地の登記達成筆数は増加しているが、名義人の理解や相続等で滞る事案もある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・1筆あたりの登記費用が高く、職員の人件費も加えると費用は大きくなると考えられる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画に記載されている「すみよき」のあるまをを目指すため、生活の身近な道路用地を確保する事は必要であり、市道用地の適正な管理を行う重要性は高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを必要とするかを記入)	・個人名義となっている市所有の道路用地が非常に多く、現在の登記名義人に理解を得ることや、相続に関する課題が多い。 ・各筆の境界確定のための道路用地名義人以外の関係者にも現地を立ち回って頂くことが必要であり、関係者全員の立会い協力について理解を得ることはむずかしい。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業		担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういった状態にしたのか(意図)	地域ぐるみで花いっぱい運動を実践し、美しいまちづくりを推進する。 花いっぱい運動を通じて、地域住民のふれあいと地域コミュニティの醸成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	久々野地域全体へ配布する花苗・肥料等資材の購入と、花づくり講習会を行い、地域ぐるみでの花づくりを支援する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	久々野地域内の町内会や公共施設へ、花苗と肥料を配布					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	花苗配布数	株	目標値	15,994	15,000	15,000
		実績値		15,994	14,814	14,114	
		算出根拠等		達成率(%)	100	99	94
	活動 指標	花づくり講習会	回	目標値	1	1	1
		実績値		1	1	1	
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
	成果 指標	公共施設数	箇所	目標値	7	7	7
		実績値		7	7	7	
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
	成果 指標	花苗配布町内会数	町内	目標値	19	19	19
		実績値		18	17	16	
		算出根拠等		達成率(%)	95	89	84
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,415	937	742	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,415	937	742	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	370	248	199	
	受益者		(B)	3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	花の世話を負担に感じ、花づくりをやめたいとの意向を示す町内会がある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	市民憲章推進協議会においても、同様な事業を実施しているため、整理が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	花苗等の一斉配布により、地域全体が花で飾られることで、明るい環境づくりが行われ、地域コミュニケーションづくりの機会となっているが、町内会によっては負担感があり、事業のあり方を見直す必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	地域内の花苗等を取りまとめ一括発注することで安価に購入している。事業効率率を図り、前年度よりもコストを削減した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	花づくりにより、美しいまちづくりと地域コミュニティの醸成に効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	高齢化の進展等による花づくりや花壇づくりを負担に感じる町内会もあり、事業のあり方を見直すとともに、同様の事業について整理を行う必要がある。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	久々野校区文化振興事業		担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	優れた芸術文化に触れる機会の充実と地域に根ざした文化活動の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	質の高い芸術文化の鑑賞など、地域が主体となって取り組む文化振興事業への助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	ふなやま川柳大会(8/15)、桃源郷寄席「三遊亭小道三独演会」(9/1)、芸能祭(10/27)、文化展(11/1~3)、「角川博」ふれあいコンサート(11/25)、企画展(5回)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	事業実施回数	回	目標値	10	10	10
				実績値	10	9	10
				算出根拠等	達成率(%)	100	90
	成果指標	全事業の来場者数	人	目標値	5,350	4,600	4,600
				実績値	4,746	4,670	4,038
				算出根拠等	達成率(%)	89	102
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
		算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	補足事項						
生涯学習意欲の向上のために、あらゆる機会の提供と鑑賞による文化振興への意識が高まっている。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 2,500	2,000	2,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,500	2,000	2,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 654	530	538		
	受益者		(B) 3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	質の高い芸術文化に触れる機会、地域の文化活動に対する関心は高く、幅広いサークル活動の日頃の練習結果を発表する機会となっており、ニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	文化振興事業の主体である地区社教に助成を行っているもので、市の支援は妥当であるが、地域の自主事業への転換が必要な時期にきており、見直す余地がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	地域に根ざした文化振興になっているが、全体の来場者が昨年度よりも減少した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	コスト意識をもち、地区社教と連携を図りながら、事業を実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	全体の来場者は例年より少なかったが、文化活動の場の提供と文化に触れる機会の充実には寄与した。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	地域からの要望は高いが、協働のまちづくりを踏まえ、コスト縮減を意識した財源確保による、地域の自主事業としての事業展開が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	久々野支所 地域振興課		内線
	番					3521
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	いつでも、どこでも、だれでもが気軽にスポーツに親しむことにより、地域住民の健全な心身を育成し、健康で明るい地域づくりを推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	スポーツイベント実施主体である地区社教が取り組む大会等開催費用の助成(ソフトボール大会、バレーボール大会、野球大会、スポーツフェスティバル、卓球大会、剣道大会、スキー大会)		

2 事業の推移・結果(Do)

目的	H26の実績	町民ソフトボール大会(6/1)、黒獅子旗野球大会(6月上旬)、ソフトボールクラブ選手権(6月下旬)、町民区対抗野球大会(8/17~)、スポーツフェスティバル(9/28)、ふれあいミニソフトバレー大会(9/28)、町民卓球大会(9/28)、町民バレーボール交流会(11/17・18・21)、町民バレーボール大会(11/23)、町民剣道大会(11/30)、町民スキー教室(1/10~12)、町民スキー大会(3/1)				
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	スポーツイベント開催回数	回	目標値	13	13	13
	算出根拠等		実績値	10	11	12
成果指標	算出根拠等		達成率(%)	77	85	92
	スポーツイベント参加者数	人	目標値	1,800	1,800	1,800
成果面	算出根拠等		実績値	2,007	2,288	1,557
	算出根拠等		達成率(%)	112	127	87
補足事項	目標値					
	実績値					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)	(A)	350	300	300	
コスト指標	受益者負担(使用料・負担金等)					
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	92	80	81	
コスト指標	受益者	(B)	3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	子どもから高齢者まで幅広く、地域のコミュニケーションとスポーツに親しむ機会となっているが、種目により参加者が固定化する傾向がある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	市民の健康づくりの視点から、市の支援は妥当であるが、個人の趣味的要素もあり、事業主体は見直しが必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	幅広く気軽にスポーツをする機会を提供し、子どもから高齢者までより多くの住民がスポーツに親しんだが、マイマイガの大発生による夜間照明の使用制限により、参加者数は例年に比べ少なかった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	参加者負担金等まだ改善の余地がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	地域住民の体力向上と地域コミュニティの活性化、スポーツに親しむきっかけづくりに寄与した。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	協働のまちづくりを踏まえ、コスト削減を意識した財源確保による、地域の自主事業としての事業展開が必要である。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	53199	地域生活道路環境保全事業(林道分)	担当課	久々野支所 基礎産業課	内線
種別	53199				3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	3 林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 林業総務費		O D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域間を結ぶふるさと林道は、地域住民の重要な道路となっており、交通安全上道路幅を確保するため除草等を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターへ清掃草刈り業務を委託。実施路線(舟山牛牧線、阿多粕西洞線、小坊口有道線、桜野線、中俣線)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・実施路線(舟山牛牧線、阿多粕西洞線、小坊口有道線、桜野線、中俣線)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	林道除草施工延長	m	目標値	25,157	29,764	29,764
				実績値	25,157	29,764	29,764
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 920	920	933		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		920	920	933		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 241	244	251		
	受益者		(B) 3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・道路の景観整備や交通事故防止のため、ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域間を結ぶ幹線道路で延長が長く、地域や利用者での自主的な維持管理がなかなかできない状況であるため、市で実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・毎年計画とおり実施し、生活環境及び交通安全の確保ができています。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・事業について収益を目的としないシルバー人材センターに業務を委託しており、コスト削減がある程度図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・安全で快適な林道環境を保ち、久々野地域住民の生活や林業の推進に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・安全な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続きコスト削減に努めながら実施する必要がある。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62499	位山舟山自然公園環境整備事業	担当課	久々野支所 基礎産業課	内線
	番社				3531
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 自然公園費		O D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・位山、あららぎ湖、船山を一体とする自然公園を整備し、市民や観光客などが安心して利用できるものとする。		
概要	事業の実手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターに登山道の整備(草刈り、木橋修繕等)を委託する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・遊歩道及び登山道の整備(草刈り等)、木橋修繕					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	登山道整備(草刈り)延長	m	目標値	3,100	9,100	14,200
				実績値	3,100	14,200	14,200
	成果指標	登山者数	人	目標値	150	150	200
				実績値	150	150	200
	算出根拠等			達成率(%)	100	156	100
				達成率(%)	100	100	100
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
算出根拠等			達成率(%)				
			達成率(%)				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	13,349	2,138	948	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			13,349	2,138	948	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	144	23	10	
	受益者 全市民		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・登山人口が増え、船山などの軽登山に人気が出てきており、登山者のための安全な登山道整備は必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市で整備した登山道であり、市での維持管理は必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・計画とおり実施しており、市民や観光客などの登山者が安心して利用できるものとなった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業について収益を目的としないシルバー人材センターに業務を委託しており、コスト縮減がある程度図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・位山、あららぎ湖、船山を一体とした自然公園を整備することにより、登山者が増加し、地域の活性化に繋がる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・登山道の継続的な整備が必要となるため、コスト縮減に努めながら実施する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	21899	公有財産購入事業		担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8	財産管理費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土地開発基金の適正な管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	合併前に土地開発基金で取得した用地の買戻しを行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	合併前に土地開発基金で取得した特別養護老人ホーム用地の買戻し(面積 49.149㎡)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	16,508	17,765	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				16,508	17,765	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)		4,378	4,776		
	受益者	(B)		3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	54199	地域生活道路環境保全事業(農道分)	担当課	久々野支所 基礎産業課	内線
種別					3531
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 農業土木費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 農業土木総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・広域営農団地農道は、飛騨農林事務所より管理移管を受け、高山市が管理することになっており、交通安全上片側一車線の道路幅は確保しなければならぬため除草作業を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターへ清掃草刈り業務を委託する。(広域農道 11,473m)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・広域営農団地農道 大坊～有道間					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	農道除草延長	m	目標値	11,473	11,473	11,473
		実績値		11,473	11,473	11,473	
	算出根拠等	達成率(%)		100	100	100	
		目標値					
	算出根拠等	実績値					
		達成率(%)					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	達成率(%)					
		目標値					
	算出根拠等	実績値					
		達成率(%)					
	算出根拠等	目標値					
実績値							
算出根拠等	達成率(%)						
	目標値						
算出根拠等	実績値						
	達成率(%)						
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	420	439		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		420	420	439		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 110	111	118		
	受益者	久々野地域住民 (B)	3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・道路の景観整備や交通事故防止のため、ニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・地域間を結ぶ幹線農道で延長が長く、地域や利用者での自主的な維持管理は出来ない状況であるため、市で実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・毎年計画とおり実施し、交通安全の確保できており成果があがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・事業について収益を目的としないシルバー人材センターに業務を委託しており、コスト縮減がある程度図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・安全で快適な農道環境を保ち、営農団地の連絡道及び農産物輸送に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・安全な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続きコスト縮減に努めながら実施する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	61199	道の駅整備事業		担当課	久々野支所 基盤産業課	内線	3531
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	商工振興費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・老朽化し危険な状態にある、道の駅なごさのシンボルタワー(展望やぐら)を解体し、利用者の安全を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・展望やぐら解体撤去工事		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・展望やぐら解体撤去					
	成果指標	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
		道の駅利用者数	人	目標値			210,000
			実績値			213,910	
		算出根拠等	達成率(%)			102	
			目標値				
			実績値				
		算出根拠等	達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
	算出根拠等	達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	1,988	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					1,988	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)			22		
	受益者	全市民	(B)		91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域住民を含めた利用者の安全が図ることができた。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設のため、市が事業主体であることは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・計画どおり、老朽化し危険なやぐらを解体撤去した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施工方法などコスト削減への取り組みは概ね適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・地域住民を含めた利用者の安全確保が図れた。
---------------------------------------	------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72299	地域生活道路環境保全事業(市道)	担当課	久々野支所 基礎産業課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3531
予算	1	一般会計	A	合併前から実施されているイベント・行事	
款	7	土木費	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
項	2	道路橋りょう費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
目	2	道路橋りょう維持費	O	D その他事業	
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・久々野地域の町内と町内を結ぶ市道について、地域住民に草刈りをお願いしているが施工延長が長く、地元町内会ですべて出来ない現状である。交通事故防止や景観保全のため草刈り清掃を実施する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・(公社)高山市シルバー人材センターへ草刈り清掃業務を委託する。(市道平野線他5路線 L=13,340m A=32,000㎡)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 指標	H26の実績	市道平野線他5路線 L=13,340m A=32,000㎡					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	市道除草延長	算出根拠等	m	目標値	13,340	13,340	13,340
				実績値	13,340	13,340	13,340
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト 内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 820	820	933		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		820	820	933		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 215	217	251		
	受益者		(B) 3,822	3,771	3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・道路の景観保全や交通事故防止のため、ニーズは非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理する道路であり、生活道路の環境保全からも重要性は高い。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・毎年計画とおり実施し、生活環境及び交通安全の確保できている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・事業について収益を目的としないシルバー人材センターに業務を委託しており、コスト削減がある程度図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	安全で快適な市道環境を保ち、久々野地域住民の安全な生活を支えることができる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・安全な通行を確保するためには、道路の環境整備が必要不可欠であり今後も引き続きコスト削減に努めながら実施する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72399	市道改良事業		担当課	久々野支所 基礎産業課	内線	3531
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	道路新設改良費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・極小な現状幅員を拡幅することにより、冬期を含め安全に安心して利用できる生活道路を整備する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道路施設の長寿命化やコスト縮減を踏まえた道路拡幅改良をする。(施工延長 L=92m W=3m)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・市道拡幅改良(施工延長 L=92m W=3m)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	道路完成延長	m	目標値			98
				実績値			98
		算出根拠等		達成率(%)			100
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等	達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等	達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等	達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	10,692	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					10,692	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)			2,874		
	受益者	久々野地域住民	(B)		3,720		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域住民要望の生活道路の拡幅改良であり、必要性は高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市道であるため、市が主体となて行う事業である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	A	・計画のとおり実施し、安全に安心して通行できる生活道路を確保でき十分な成果をあげることができた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・施工方法など、コスト縮減の取り組みは概ね適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・生活道路の整備等を行うことにより、安心して暮らせる地域づくりに貢献できている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域住民の利便性の向上を図ることができた。一方で除雪などの市民の安全確保のための維持管理を実施する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	ふるさと名人継承事業		担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		O	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	「小屋名しようけ」「有道しゃくし」の技術の普及と後継者の育成を行い、後世に伝統文化を引き継ぐ。		
概要	事業の実施手法(手段)	講習会の実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	「小屋名しようけ」 10月から3月までに10回の講習会を開催 「有道しゃくし」 10月から3月までに10回の講習会を開催					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	受講申込者数(小屋名しようけ)	人	目標値	20	20	20
				実績値	24	23	15
	算出根拠等			達成率(%)	120	115	75
	活動指標	受講申込者数(有道しゃくし)	人	目標値	10	10	10
				実績値	7	7	12
	算出根拠等			達成率(%)	70	70	120
	活動指標	継続受講申込者数	人	目標値	15	15	15
				実績値	8	15	15
	算出根拠等			達成率(%)	53	100	100
	成果指標	新規受講申込者数	人	目標値	15	15	15
				実績値	18	15	12
	算出根拠等			達成率(%)	120	100	80
	成果指標	修了証交付者数(小屋名しようけ)	人	目標値	15	15	15
実績値				11	8	10	
算出根拠等			達成率(%)	73	53	67	
成果指標	修了証交付者数(有道しゃくし)	人	目標値	8	8	8	
			実績値	6	7	9	
算出根拠等			達成率(%)	75	88	113	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	165	188	185	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			165	188	185	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2	2	2	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	久々野地域以外の住民からの受講申込もあり、受講者の継続への意欲も強い。市民ニーズはある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	市としても重要な郷土工芸であり、後世へ残し伝える必要があるが、保存会が主体となった継承活動への移行が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	継続受講者数や修了証交付者数も安定してきており、伝承技術の継承として成果はあがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	材料費などの必要最小限の経費で事業が実施できるよう工夫しているが、受講者負担等まだ改善の余地がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	伝統芸能を後世に引き継ぐという観点から、文化資源を活かした地域づくりにおいて効果がある。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	保存会の自主的な活動に向けた方向性が必要である。
---------------------------------------	--------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域住民が主体となって取り組む地域振興事業を支援することにより、地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進し、特色ある地域づくりによる地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域住民が自主的・主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業に対し、事業費の助成を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	安全、安心、快適な住環境づくりに関する事業 特色ある地域づくり、地域活性化に関する事業					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	申請数	件	目標値	40	40	40
		算出根拠等		実績値	38	42	38
	成果 指標	補助件数	件	目標値	40	40	40
		算出根拠等		実績値	38	42	38
	成果 指標	補助金交付率	%	目標値	95	95	95
		算出根拠等	予算執行額/予算額	実績値	84	70	98
	算出根拠等			達成率(%)	88	74	103
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
	コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
		歳出(千円)		(A)	6,326	5,201	6,377
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源			6,326	5,201	6,377		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,655	1,379	1,714	
	受益者		(B)	3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	制度が広く住民に浸透しており、地域住民が自ら地域をより良くしようと、町内会を主体とした地域の住環境整備や、にぎわい創出事業におけるニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	地域力の向上と地域活性化を推進するための事業であり、市が支援することは妥当だが、協働のまちづくりを踏まえ、事業のあり方の検討が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	予算執行率は前年度より増加しており、幅広く町内会・団体・グループの地域づくり事業を支援し、住環境整備と地域活性化が図られた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	計画に対して、支所から申請者に助言し、事業コストの妥当性に配慮しながら実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	安心・安全な住環境づくり、特色ある地域づくり、地域活性化に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	地域からの要望は高いが、協働のまちづくりを踏まえ、事業の必要性・重要度・効率化を考えた対応が必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	久々野支所 地域振興課	内線	3521
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	市有施設における地域からの軽微な修繕要望に対して早急に対応を行い、安心・安全・快適な生活環境整備を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の要望により、市道や農道や水路等の軽微な修繕を実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市道修繕(21件)、排水修繕(2件)、公共施設修繕(2件)、林道修繕(1件)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	要望事項受付数	件	目標値	20	20	20
				実績値	25	28	26
	成果指標	算出根拠等	件	達成率(%)	125	140	130
				要望事項実施数	目標値	20	20
	成果面	算出根拠等	件	実績値	25	28	26
				達成率(%)	125	140	130
	成果面	算出根拠等	件	目標値			
				実績値			
成果面	算出根拠等	件	達成率(%)				
			目標値				
成果面	算出根拠等	件	実績値				
			達成率(%)				
成果面	算出根拠等	件	目標値				
			実績値				
成果面	算出根拠等	件	達成率(%)				
			目標値				
成果面	算出根拠等	件	実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
地域住民からの要望を精査し、関係部署と協議し、予算執行できるよう調整している。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	7,890	6,708	9,392	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト指標	一般財源		7,890	6,708	9,392		
	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2,064	1,779	2,525	
コスト指標	受益者		(B)	3,822	3,771	3,720	
	久々野地域住民						

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	道路や側溝の修繕など、地域からの要望に対し、即応性が高い事業であることから、地域からのニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市有施設における軽微な修繕であり、市が事業主体となることは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	地域からの要望に即応し、公共性の高い施設修繕を行っており、即効的で効果が市民全体に及んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	費用対効果を意識し、事業の効率化とコスト削減に努めた。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	地域住民の安心・安全な生活環境の実現を図るための政策として有効で、即応性をもって対応できた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	要望に対する必要性や重要度について精査を行い、常に採択事業の効率化を考え、即応性をもって引き続き実施する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	種別	土地借上料	担当課	久々野支所 地域振興課		内線	
						3521	
予算	会計		特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款			O	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目				D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	久々野地域住民	対象者数	3,666 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	久々野地域の公共施設維持のための土地の借上げ。		
概要	事業の実施手法(手段)	旧久々野町時代から民間から借上げている土地の中で、高山市の借上げ基準を上回る物件についての土地賃借。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコピアスキー場土地 ・駅駐輪場 ・堂之上遺跡看板用地 ・久々野診療所及び久々野東部診療所 					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	高山市土地借上げ基準達成件数	件	目標値	5	5	5
				実績値	0	0	0
				達成率(%)	0	0	0
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	5,273	5,273	5,158	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			5,273	5,273	5,158	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,380	1,398	1,387	
	受益者		(B)	3,822	3,771	3,720	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	公共施設として地域住民が利用しており、維持運営するための土地借上げは必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	施設の継続運営・使用のため、市の基準額を超えていても、引き続き市が賃借料を支払う必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	目標値の達成に向けて、地権者と条件や期間など、高山市の基準に近づくよう粘り強く交渉を実施している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	地権者と条件や期間など、高山市の基準に近づくよう交渉して、額の引き下げを徐々に進めている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 8	→	100点換算	75 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	施設の継続運営・使用のため、高山市の基準に早く近づけるよう、地権者と粘り強く単価交渉をする必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定